

小山をよくする会

歴史と文化を活用した地域づくり
～ふるさとを誇る住民意識の啓発事業～



赤枠で囲われたところが小山地区

(1) 小山地区の概要

大野市小山地区は、人口約2千人、世帯数は約650戸。15の集落で構成される緑豊かで自然にあふれた農村地域である。

面積は、東西2キロメートル、南北4キロメートルの約8平方キロメートル。その位置は、大野市の南西部、市街地に隣接し、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地している。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在している。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、地区有数の農村地帯として発展してきた歴史がある。

本事業の実施主体は、地区内全戸を会員とする小山をよくする会である。

事務局を小山公民館に置き、地区内から選出された会長1人、副会長2人と、各集落の代表として選出された推進委員45人で話し合いを行いながら、明るく豊かで住み良い地域づくりを目指して活動している。

(2) 小山地区の課題

小山地区は、大野市内でも有数の歴史を誇る

地区である。

公民館の歴史講座を受講したことをきっかけに、平成18年頃に地域の歴史を学習するグループが生まれ、地域史の掘り起こし活動が行われてきた。

しかし、多くの地域住民に、地域の歴史に関心をもっていただく活動を広げていくことは簡単なことではなく、地域の歴史に対する地域住民の関心はそれほど高くなっていないのが現状である。

そこで、平成22年度に始まった「越前おおの地域づくり交付金事業」を活用して、地域の歴史と文化を活用した地域づくり事業を行うことにした。

事業を実施するにあたり、次の二つを事業の柱とし、事業の実施方針とした。

1つは、地域の歴史や文化を掘り起こし、地区住民に知ってもらい地域を誇りに思う住民意識の醸成すること目的とした「歴史と文化の里づくり事業」である。

もう1つは、古くから米づくりなどの農作業により地域に受け継がれてきた「結の精神」を後世に承継していくことを目的とした「地域コミュニティ支援事業」である。地域住民が一丸となり、地域の課題を住民が知恵を出し合い協働で作業し解決するといった風土を継承していくために支援していくものである。

平成24年度も、前年度までと同様に、この二つの事業に取り組んだ。

(3) 事業の内容

①歴史と文化の里づくり事業

平成23年度に地域の歴史の掘り起こしを目的として開催した地域歴史講座に、講師としておいでいただいた青木豊昭氏（県立一乗谷朝倉遺跡資料館 元館長）が、小山地区の史跡などに興味を持たれ、独自に史跡調査を実施された。

その結果、南北朝時代の戦を記録した軍中状に記されている「舌城」が、御城山（上舌地係）に存在していたことがわかってきた。

また、御城山に38基ある古墳群に墳丘の長さが約30メートルの前方後円墳が確認された。奥越地区唯一の前方後円墳と言われる山ヶ鼻6号墳（尾永見地係）に次いで発見である。

このように、歴史的に貴重な史跡として確認された舌城を地域内外の方に知ってもらうために、気軽に散策できる道を整備することとした。

作業は、小山をよくする会推進委員をはじめ、上舌区民、小山荘歴史の会のメンバーにより共同で実施した。

御城山は、標高244メートルで高低差は約50メートルの低い山であるが、人が歩けるような道が全くなかったところを切り開いて道を作ることは重労働であった。作業は、以下のとおり5日間、のべ62人が参加し汗を流した。

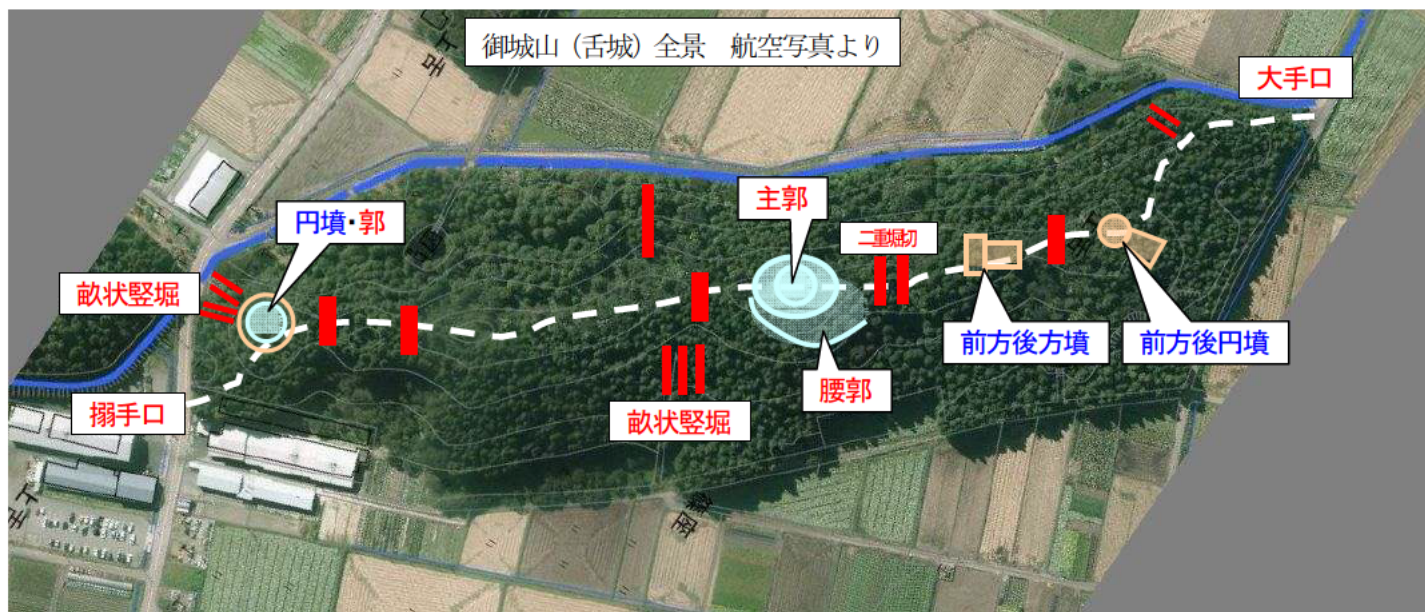
- ①6月9日 下草刈り 12人
- ②6月15日 下草刈り 12人
- ③7月21日 階段設置 14人
- ④10月14日 看板設置 13人
- ⑤11月16日 階段設置 11人

作業内容としては、下草刈り、立木の枝伐採、階段の設置、急な坂道のロープ設置、案内看板の設置などである。



作業の様子

大手口から搦手口までの約600mのうち、それぞれの登り口から約100mについて、整備が完了したところであり、引き続き、



交付金事業を活用させていただき整備作業を継続していきたい。

①地域コミュニティ支援事業

5地区において集落内の問題解決するための事業と、小山地区内有志で組織された実行委員会による地域・世代間交流事業が計画され、提案された。

- ・牛頭山神社参道整備後半（阿難祖領家）
- ・集落センター進入路整備（下黒谷）
- ・集落センター広場芝生植栽後半（千歳）
- ・地区広場赤土整備（右近次郎）
- ・地域ぐるみ除雪研究（新庄）
- ・集落間・世代間交流（キッズフェスタ）

提案された事業費が交付金予定額を上回ったため、小山をよくする会推進委員会において協議し、交付金の配分は、集落から計画・提案された額を一律に一定割合減額することで事業を実施することとした。

阿難祖領家地区では、前年度の同事業により実施した道路舗装の残り部分の舗装を実施し、予定していた箇所を完成した。

道路がきれいに舗装されたことで、集落内の高齢者も安心して利用できるようになり、住民は非常に喜んでいる。



阿難祖領家地区の道路舗装

下黒谷地区では、地区集落センターへの道路

からの進入路をコンクリートで整地する事業を実施した。

集落センターへの進入路を整備したことで、利便性が向上した。



下黒谷地区の集落センター進入路の整備

千歳地区は、前年度の同事業により実施した地区集会センター広場の芝生植栽の残り部分を実施し、予定した箇所がすべて芝生の広場に生まれ変わった。

子どもたちの遊び場として、また、住民のくつろぎ空間として利用されている。



千歳区の集落センター広場への芝生植栽

右近次郎地区では、地区が保有する遊具広場に砂利、赤土を敷き整地した。整備前は、水はけの悪い不正地であった広場を住民の奉仕作業により整地したことで、子どもたちの遊び場として、気持ちよく利用できるようになった。

しかし、当初予定した原材料（砂利、赤土）を購入できなかったため、予定した箇所が一部整備できない状態となった。



右近次郎地区の広場の整地

新庄地区では、地域ぐるみで除雪を組織的に実施するための研究事業を実施した。

行政の除雪対象外となる道路などは、個人が除雪しなければならないが、高齢者世帯など除雪が困難な世帯が増えつつある現状の中、地域ぐるみで除雪する方法を探るものである。地区住民による除雪作業を行う組織をつくり、個人が保有する重機を借上げるといった仕組みによる地域ぐるみ除雪を実施した。今年度は、降雪量が少ない年であったこともあり、地域ぐるみによる除雪組織が有効に機能したことを確認した。一方で、高齢化の進展に伴う地域ぐるみ除雪箇所への対応、将来にわたる重機の維持・確保・新規導入など、将来を展望した場合の事業の問題も明らかになり、大きな研究成果が得られた。



新庄地区の地域ぐるみ除雪

小山公民館で活動するグループの有志により

結成されたキッズフェスタ実行委員会により、小山地区全体の交流、世代を越えた交流の機会として、キッズフェスタが企画、提案された。前年度も開催され、大変好評だったことから継続して実施するものである。

今年度は、うすと杵を使った餅つきを子どもたちに体験させる内容とした。家庭での餅つき体験が少なくなりつつある中、子どもたちに餅つきを体験させる良い機会となった。また、地域に住む餅つき熟練者を招き指導してもらったことで、世代間の交流も生まれ、地域の絆が深まったイベントとなった。



キッズフェスタの様相

(4) 事業の成果

①歴史と文化の里づくり事業

平成22・23年度に実施した歴史と文化の里づくり事業において開催した地区歴史講座をきっかけに、地区内に新たな史跡（舌城跡）が発見された。

歴史的に価値のある史跡を地域住民に知ってもらうための舌城跡整備は、住民の作業により実施されたことから参加者はいにしへの山城や古墳を肌で感じ取れたようである。また、小山をよくする会の独自事業として、整備された舌城跡を含め地域の史跡をめぐる「地域史跡めぐりウルトラクイズ」を開催し、住民への周知を図るとともに、地域を誇りに思う住民意識の醸成に取り組んだ。

参加者からは、小山地区に住んでいながら「地域の歴史の知らないことが多いことに気づいた、地域の歴史に興味があった。」などの声があり、地域の歴史を知り、興味を持ってもらい、地域を誇りに思う意識が芽生えつつあると言える。

②地域コミュニティ支援事業

集落が持つ課題を集落で話し合い、集落の力で解決していくこの事業を実施したことにより、集落の共助や絆の大切さを再認識することができた。

小山地区は、農作業など地域で協力する“結の精神”が受け継がれている地区である。しかしながら、農作業の機械化や就労環境の変化などに伴い、地域をあげた共同作業の機会が減少しつつあり、本事業で地域の課題を話し合い、共同作業により解決することは、“結の精神”を継承する上で大いに役立ったと思う。

また、地域交流・世代間交流を目的に実施したキッズフェスタでは、昔ながらの食文化を受け継ぐきっかけとなり、イベントを通じた交流が深まった。

(5) 今後の展望

同じテーマを掲げ、継続して取り組んだ結果、事業に参加した人を中心に、地域を誇りに思う住民が徐々に増えてきた。平成24年度市民協働推進提案事業の採択を受け、地域の歴史学習グループが、旧大野郡内に存在する山城を紹介する書籍を発刊するなど、地域歴史を掘り起こす事業が広がりを見せている。

歴史と文化の里づくり事業においては、舌城跡整備の残された部分の整備を行うとともに、引き続き住民周知に力を入れ、地域の歴史を通じて、地域を誇りに思う意識をさらに広め、高めていく必要がある。

また、地域コミュニティ助成事業については、事業の目的としている“結の精神”の継承を図

るため、事業を継続していく必要がある。

農作業の歴史が作り上げた助け合い、協力する精神を今後、長く継承するためには、継続した取り組みが必要である。

地域活動が活性化し、地域を誇りに思う意識や機運がより高まるよう、小山をよくする会として、今後も粘り強く地域づくりに取り組んで行きたいと考えている。